



十勝管内15市町村が利用 (うめ～るセンター美加登)

3 常任委員会が合同で現地調査 最終処分場 閉校後の後利用

池田町に位置する一般廃棄物最終処分場「うめ～るセンター美加登」は、2011年度(平成23年度)から供用開始し、2025年度(令和7年度)ま

での15年間運用する予定。2021年度(令和3年度)末現在で11年が経過し、埋立容量の半分程度の約14万8千立方メートルが廃棄処理されているが、計画より

少ない実績であり、延長できる見込みである。当該施設を利用しているのは十勝管内15市町村。埋立の約77%は、くりりんセンターの焼却灰であり、年間994台の20トン級ダンプトラックが往來している。その他不燃物や破砕不適物を含めて全体で年間1827台分、1万3600トンを埋め立てている。施設の特徴は環境に配慮した最終処分場であり、施設の防災調整池で、きれいな水にしか息できない保全貴重種のエゾサンショウウオの産卵箇所が確認されている。日常生活を行う上で必ず出てくるゴミは、



整備が進むサテライトオフィス (旧昭和小学校)

その減量、リサイクル、不法投棄防止及び自然環境に配慮した処理要領等について実効性ある対策が必要である。

旧昭和小学校 テレワークスペースに

町は2020年3月に閉校した旧昭和小学校の校舎の一部を貸事務所として、山本忠信商店が代表事業者のグループ3社に貸し出ししている。同グループは貸事務所を活用し、

2022年4月に経営統合した帯広畜産大学(農学)、小樽商科大学(商学)、北見工業大学(工学)と連携し、起業したい人を募り出資して事業を創出するほか、障がいのある人の雇用について企業グループ算定特例や特例子会社としての認定を目指している。意欲あふれる起業家が多教育、町内及び十勝の活性化につながることを期待したい。

編集後記

4年に1度のサッカーの祭典ワールドカップカタールの大会がアルゼンチンの優勝で幕を閉じた。日本代表サムライブルーは、下馬評を大きく覆し強豪国を次々と破り、グループリーグを突破し決勝トーナメントに進出。悲願のベスト8には届かなかったが、国民を熱狂させるには十分すぎる衝撃だった。

連日夜中に目をこすり試合を観戦した人も多いと思うが、映像に映る観客席にマスク姿の人を見かけただろうか? あれほどの密集、歓声の中でも世界はマスクを手放した。今の高校3年生は中学校の卒業式が縮小して挙行された。高校に入学して以来マスク生活が続き、この春に卒業する。はたして彼らはマスクが不要になったときに、街ですれ違う同級生に気付くのだろうか?

編集委員 平子勇輔